

錦江に生きる

きゆうにん目

栗脇 明浩さん (新田自治会)



真剣に公務に取り組む明浩さん



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていくと頑張っている若者を中心に紹介していきます。第九回目は、新田自治会の栗脇明浩さんです。

栗脇明浩さんの周りには、いつも笑いであふれている。どんな時も楽しく明るくがモットーという明浩さんは、何事も笑い飛ばすことが出来るほどのパワーがある。

就職先を模索していた高校3年の春、父・孝さんに「役場を受けてみないか」と勧められた。家業の養鶏業を継げと言われると思っていた明浩さんはビックリしたと言う。孝さんの意図を考えに考え、地域に貢献することだという答えを見出した明浩さんは役場に勤め、地域に恩返しする道を選んだ。

平成2年に奉職し、すぐに大原地区青年部に入って地域活動を始めた。友人たちと遊びたい衝動に駆られたこともあったが、最初で人を知らなければいけないと、地域活動に更には成人してからは「のん方」に励んだ。明浩さんいわく、「焼酎を知り、人を飲むことが地域に貢献する第一歩だ」これは、焼酎を知り地域を知らなければ活躍は出来ないという意味らしい。(建前が半分らしい)

現在、明浩さんは奥さんと可愛い4人の子供たちと新田自治会に両親と隣同士で暮らしており、12年間、大原地区公民館の主事を続けている。明浩さんは、公務と地域活動に精を出すかわら、時間が出ると家族6人で孝さんの仕事を手伝いに行くらしい。「地域活動を頑張れるのも仕事を頑張れるのも、家族がいるからです。子供たちがのびのび健康やかに成長出来る場所を作っていきたい。仕事を手伝うのも父の為が半分、子供たちに生きることがどういうことかを知ってもらうことが半分」という。

明浩さんは、これからも地域に根ざして自分の道を突き進む!

●同僚より一言

栗ちゃんがすごいんじゃないよ、熊本から知らない土地に来て文句一つ言わず栗ちゃんや家族を支えている奥さんがすごいんだよ!

(おまけ…)「ひよこは好き、ピヨピヨ鳴くひよこ。実家に三万羽いるんだけど見に来ない?」これがプロボースの言葉だったとか違ったとか…)

▶楽しかった家族旅行での一枚

錦江町

おもで 思ひ出写真館

▶波がうち上がっている鳥井戸海岸



波が怖くて眠れぬ夜もあったという

高潮、高波の恐怖にさらされていた時代

提供 鮫島サツ子さん (鳥井戸自治会)

写真のご協力をお願いします

「錦江町思ひ出写真館」に掲載する写真を募集します。撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。お借りした写真は責任を持ってお返しします。掲載は受付順とさせていただきます。



▲当時の現状を伝える新聞記事